

2009年3月期 第1四半期 決算概要

2008年7月30日
NECエレクトロニクス株式会社

<http://www.necel.com/ir/ja/>

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2009年3月期 第1四半期 の決算概要についてご説明させていただきます。

I. 2009年3月期 第1四半期 業績概要

- 半導体売上・営業利益ともほぼ想定通り

II. 2009年3月期 業績見通し

- 業績予想は据置き
- 実行ベースでは上期営業利益予想30億円以上の確保を目指す
- 下期の汎用品需要の下振れ懸念も、年間での「最終損益黒字化」目標を維持

III. ビジネス ハイライト

- 表示ドライバ専業JVの設立合意（2008年6月20日発表）
- DRAM混載LSI/EMMAビジネスが順調に拡大

こちらが本日のご説明内容のサマリでございます。

まず、09年3月期第1四半期の業績は、半導体売上・営業利益ともほぼ期初想定通りの結果となりました。

次に、09年3月期の業績見通しでございますが、期初の業績予想を据置いております。上期につきましては、為替も想定比で円安で推移しておりますので、実行ベースでは、30億円の営業利益予想を上回る業績を確保したいと考えております。また、下期につきましては、汎用品需要の下振れリスクが高まっておりますが、当初の経営目標である年間での最終損益黒字化を維持いたします。

最後に、ビジネスハイライトとして注力分野のビジネス状況等につきご説明致します。

I. 2009年3月期 第1四半期 業績概要

II. 2009年3月期 業績見通し

III. ビジネス ハイライト

それでは、スライドに沿ってご説明してまいります。

第1四半期 業績の概要

NEC

(単位:億円)	08/3期		09/3期		
	1Q, 6/30	4Q, 3/31	1Q, 6/30		
	実績	実績	実績	前年同期比	前期比
売上高	1,736	1,660	1,663	△73	+3
半導体売上	1,650	1,554	1,592	△58	+37
営業損益	△22	2	17	+39	+15
税前提損益	4	△67	3	△2	+70
当期純損益	△13	△120	△13	+0	+107
フリーキャッシュフロー	△59	△38	△67	△8	△29
D/Eレシオ	0.50倍	0.51倍	0.51倍	-	-
株主資本比率	39%	37%	37%	-	-
適用為替レート	1US\$=119円 1Euro=160円	1US\$=109円 1Euro=160円	1US\$=103円 1Euro=160円	対US\$ 16円高 対Euro -	対US\$ 6円高 対Euro -

注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

NEC ELECTRONICS

4

まず、第1四半期の実績の概要でございます。

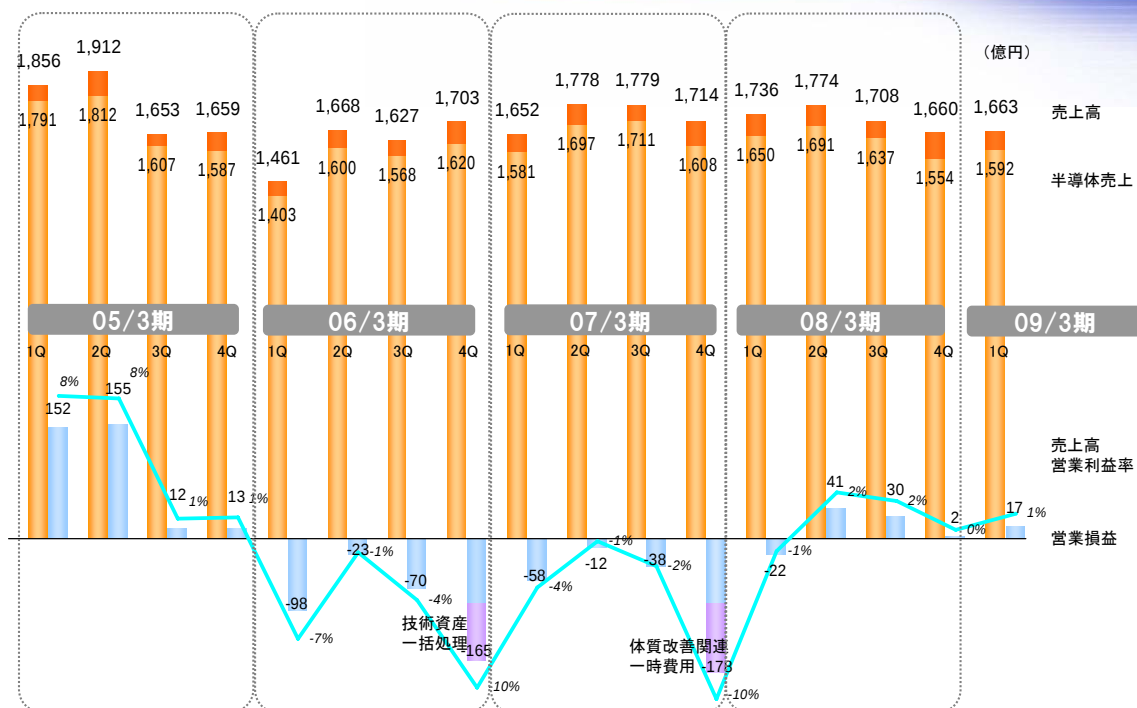
売上高は、前四半期との比較ではほぼ横這いの1,663億円となりました。

半導体売上高は、前四半期比で2%増加の1,592億円、また、営業損益は、前四半期比で15億円改善し17億円の黒字となりました。

当期純損益は海外法人の税金費用等により13億円の損失となりました。

四半期別業績推移

NEC



注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

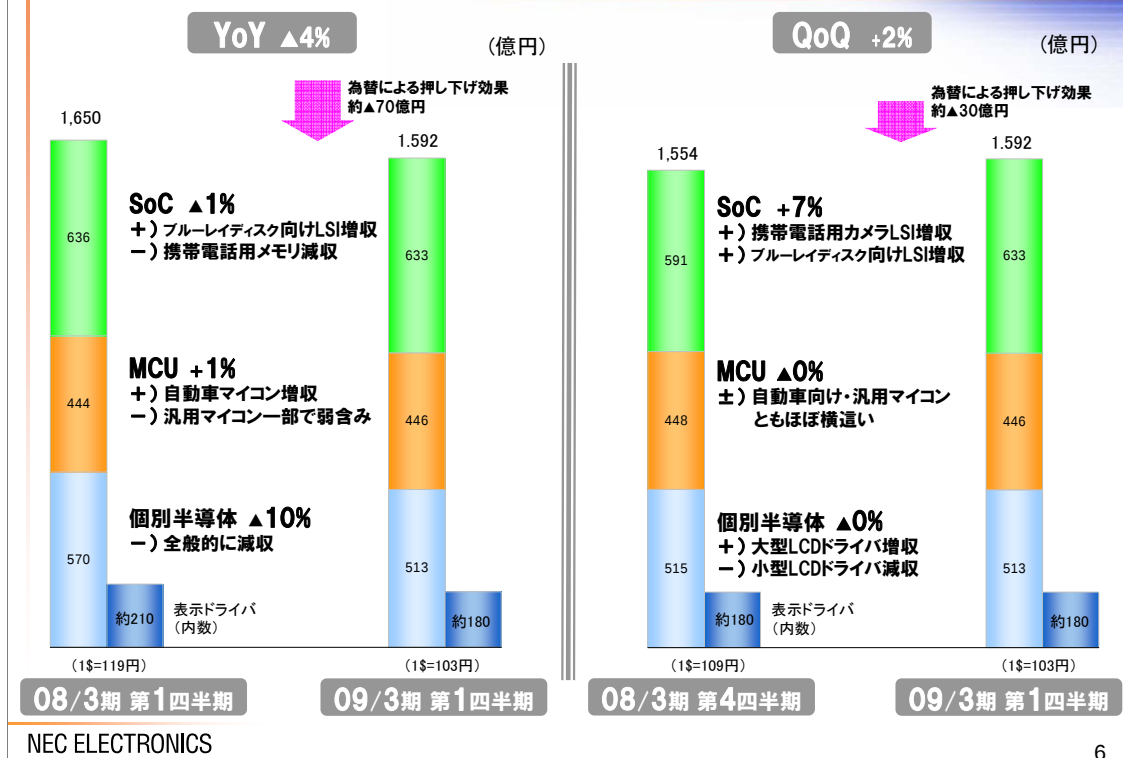
NEC ELECTRONICS

5

次に、四半期ごとの業績推移をみてみますと、引き続き為替のマイナス影響を受けておりますが、4(よん)四半期連続で営業黒字を維持しております。

第1四半期 半導体売上高(製品群別)

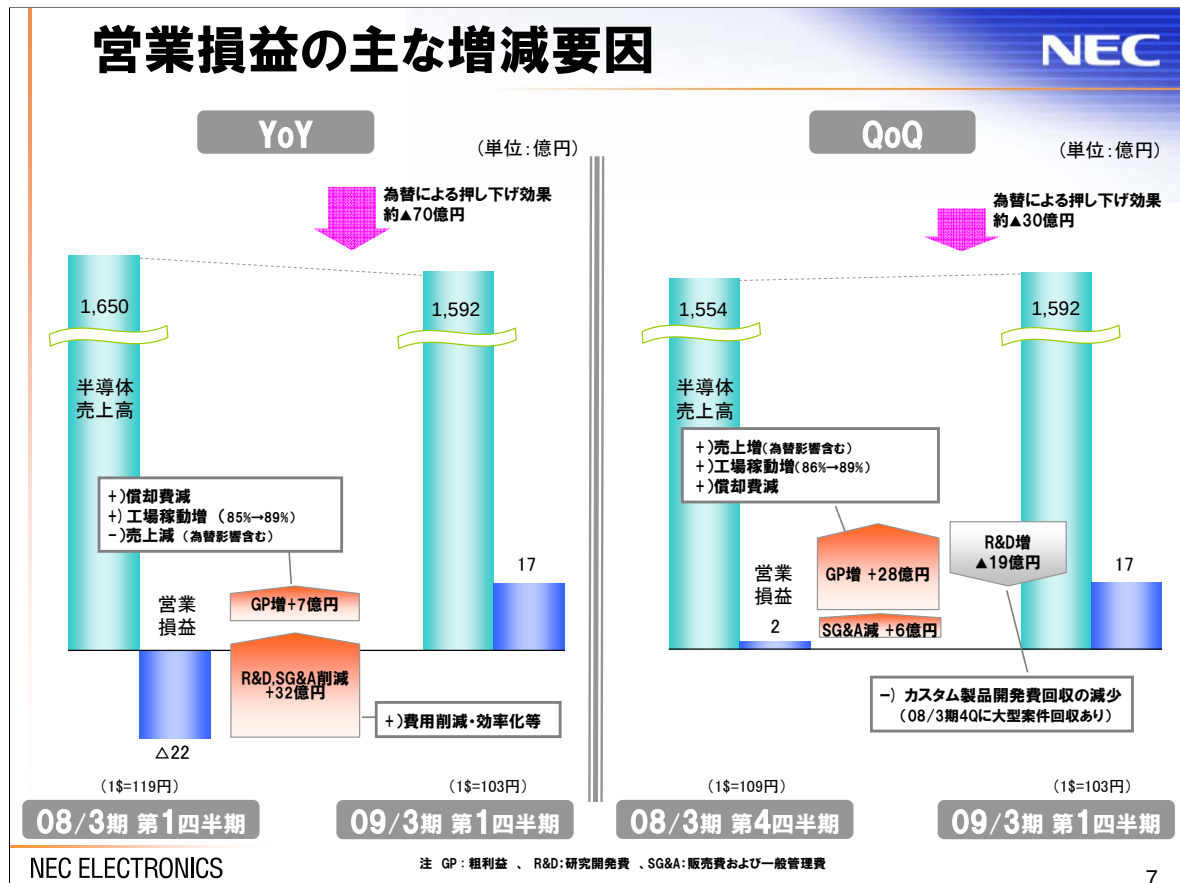
NEC



6ページは第1四半期の製品群別の半導体売上高についてお示ししています。

前年同四半期との比較(左グラフ)では、ブルーレイディスク機器向けLSIの大幅な増収などがありましたが、個別半導体の全般的な不調により、全体では4%の減収となりました。

前四半期との比較(右グラフ)では、携帯電話用カメラLSIやブルーレイディスク機器向けLSIなどを中心にSoCが7%増収となり、全体では2%の増収となりました。



7ページは、第1四半期の営業損益を前年同四半期および前四半期と比較したものです。

前年同四半期との比較(左グラフ)では、半導体売上高が為替の影響などで減少したものの、研究開発費の効率化による費用削減等により、39億円改善いたしました。

また、前四半期との比較(右グラフ)では、カスタム開発費回収の減少による研究開発費の増加があったものの、工場稼働率の改善や償却費の減少などにより、15億円の増益となりました。

バランスシート

NEC

(単位:億円)		07/6	08/3	08/6
	現金および現金同等物	1,773	1,655	1,590
	受取手形および売掛金	1,042	964	995
	たな卸資産	799	758	795
	有形固定資産	2,915	2,592	2,539
	その他の資産	371	195	293
総資産		6,900	6,163	6,212
	支払手形および買掛金	1,273	1,081	1,060
	社債および借入金	1,337	1,166	1,173
	その他の負債	1,555	1,593	1,629
	負債	4,166	3,840	3,863
少数株主持分		47	52	48
株主資本		2,687	2,271	2,301
負債、少数株主持分および資本合計		6,900	6,163	6,212
D/Eレシオ(グロス)		0.50倍	0.51倍	0.51倍
株主資本比率		39%	37%	37%

NEC ELECTRONICS

8

8ページはバランスシートでございます。

前四半期末との比較でたな卸資産が増加しておりますが、売上増に向け工場稼働率を上げている局面であり、適正な水準であると考えております。

D/Eレシオは0.51倍、株主資本比率は37%と、それぞれ前四半期から横這いとなりました。

(単位：億円)	08/3期			09/3期
	1Q	4Q	年度計	1Q
営業活動による キャッシュ・フロー	15	5	433	42
投資活動による キャッシュ・フロー	△73	△43	△378	△109
フリー・ キャッシュ・フロー	△59	△38	55	△67

次にキャッシュ・フローでございます。

第1四半期は、生産能力増強中である山形300mmラインの製造設備の支払い等により投資キャッシュフローが109億円の支出となり、フリーキャッシュフローは67億円の支出となりました。

I. 2009年3月期 第1四半期 業績概要

II. 2009年3月期 業績見通し

III. ビジネス ハイライト

続きまして、2009年度3月期の業績見通しについてご説明致します。

09/3期 業績予想

NEC

期初予想から変更なし。引き続き年間での最終損益黒字化を目指す

(単位:億円)	08/3期			09/3期			
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	
	実績	実績	実績	予想	予想	予想	前年比
売上高	3,510	3,368	6,877	3,350	3,500	6,850	△27
半導体売上	3,341	3,192	6,533	3,200	3,300	6,500	△33
営業損益	19	32	51	30	70	100	+49
税前提損益	18	△51	△33	0	40	40	+73
当期純損益	△30	△130	△160	△20	20	0	+160

為替レート

1US\$=	120円	112円	116円	100円	100円	100円	16円高
1Euro=	162円	161円	161円	160円	160円	160円	1円高

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
注2:予想値は2008年7月30日現在

NEC ELECTRONICS

11

今年度の業績予想は期初時点から変更ございません。

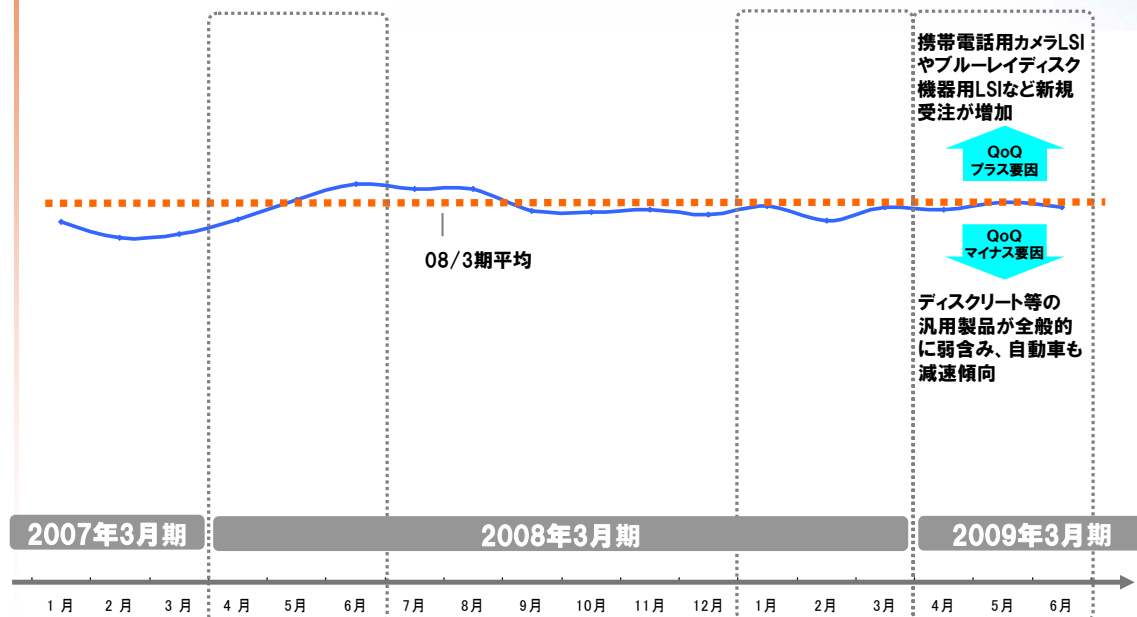
下期の汎用品需要の下振れリスクの高まりや資源価格の高騰など注意すべき点がありますが、引き続き、年間での最終損益黒字化を目指してまいります。

半導体受注高の推移

NEC

受注（3ヶ月移動平均）

第1四半期の受注動向（QoQ）



NEC ELECTRONICS

（為替は便宜上受注月の当社売上計上レートを適用）

12

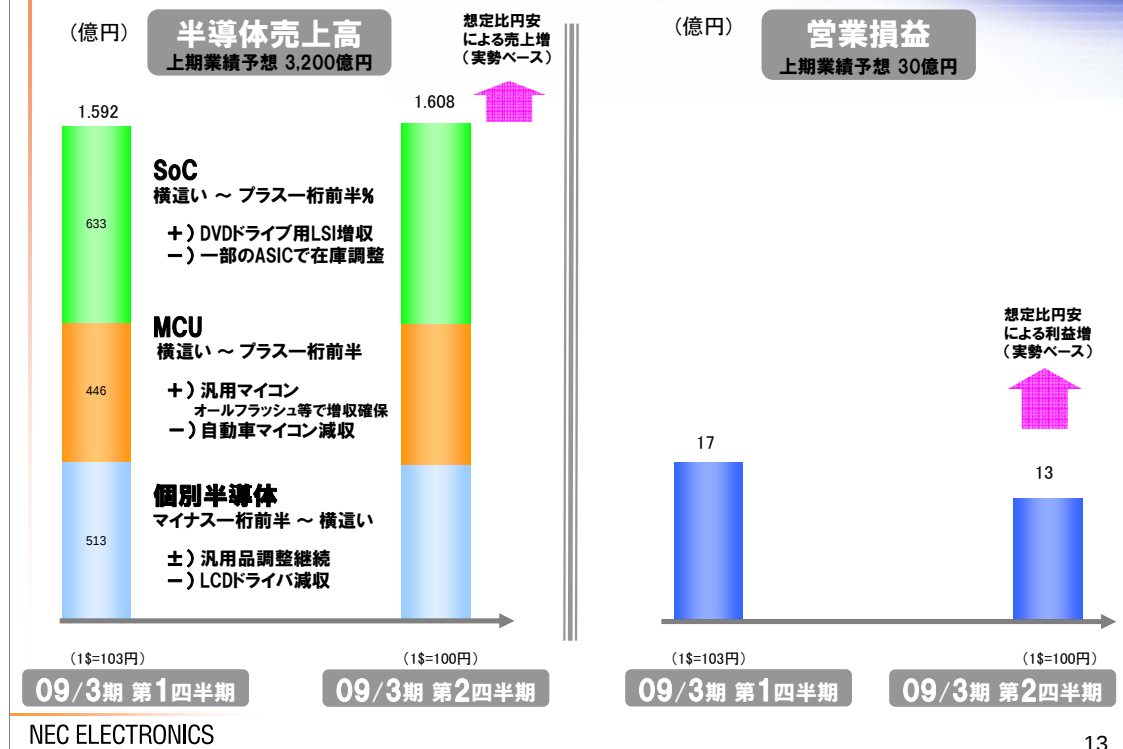
12ページは、半導体受注高の推移を3カ月移動平均で示したものです。

第1四半期の半導体受注は、前四半期に比べ、携帯電話用カメラLSIやブルーレイディスク機器向けLSIなど当社の注力分野で新規受注が旺盛であった一方で、ディスクリットなど汎用製品の受注は全般的に弱含みであり、自動車分野についても北米などでは受注が落ち込んでいます。

また、下期にかけても、このように注力分野での新規受注による売上増が汎用製品の弱含みにより相殺される傾向が継続するリスクがあり、楽観できる状況ではないと考えております。

第2四半期 業績見通し (前四半期からの変化)

NEC



13ページは、第2四半期の半導体売上と営業損益の見通しでございます。

当社は、1\$=100円を為替前提として、上期業績予想を据置いておりますので、第2四半期の半導体売上は前四半期比で1%の増収ということになりますが、引き続き為替が想定比円安で推移すると仮定すると、実勢ベースでは、さらなる増収を確保したいと考えております。

営業利益についても、償却費などの費用増が見込まれますが、実勢為替ベースでの増益を確保したいと考えております。

I. 2009年3月期 第1四半期 業績概要

II. 2009年3月期 業績見通し

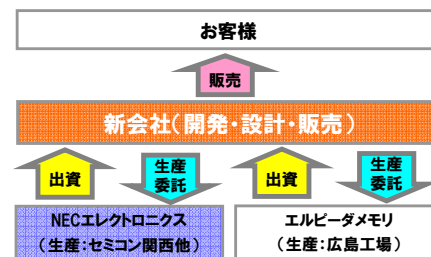
III. ビジネス ハイライト

最後に、ビジネスハイライトでございます。

表示ドライバIC専業JVの設立

エルピーダメモリと表示ドライバIC分野で
合併会社設立を基本合意(2008年6月20日発表)

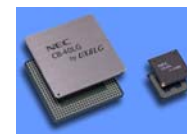
- 9月末の合併契約締結にむけ
詳細について両社で検討中
- 当社の設計技術と
エルピーダメモリ300mmラインでの大規模生産
の融合で高収益な事業拡大を目指す!



注力ビジネス 進捗状況

DRAM混載LSI

- eDRAM対応40nmセルベースICの受注活動開始
- 携帯電話/DTV向け新製品の量産を開始



eDRAM対応40nmCBIC

EMMA (Enhanced Multi-Media Architecture)

- 既存ビジネス拡大に加え、新規顧客にデザインイン (ブルーレイディスク機器, DTV)

まずは 6月20日に広報発表致しました通り、当社はエルピーダメモリと表示ドライバIC分野での合併会社設立を基本合意致しました。詳細については両社で検討中ではありますが、両社の競争優位性を融合させ、高収益な事業展開を目指して参ります。

次に、注力ビジネスについて若干進捗状況をコメントさせていただきます。

DRAM混載LSIにつきましては、他社に先駆けて40nmでeDRAMに対応したセルベースICの受注活動を開始致しました。お客様からは上々の反応を頂いております。

また、5月の年間決算でご紹介した新規プロジェクトの一部は既に順調に量産フェーズに移行しております。

デジタルAVプラットフォーム 'EMMA' につきましても、ブルーレイディスク機器やデジタルテレビ分野であたらしいお客様から採用内示を頂くなど、順調に事業拡大が進んでおります。

NEC

NEC Electronics Corporation

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されている当社および連結子会社(以下NECエレクトロニクスと総称します。)の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1)NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

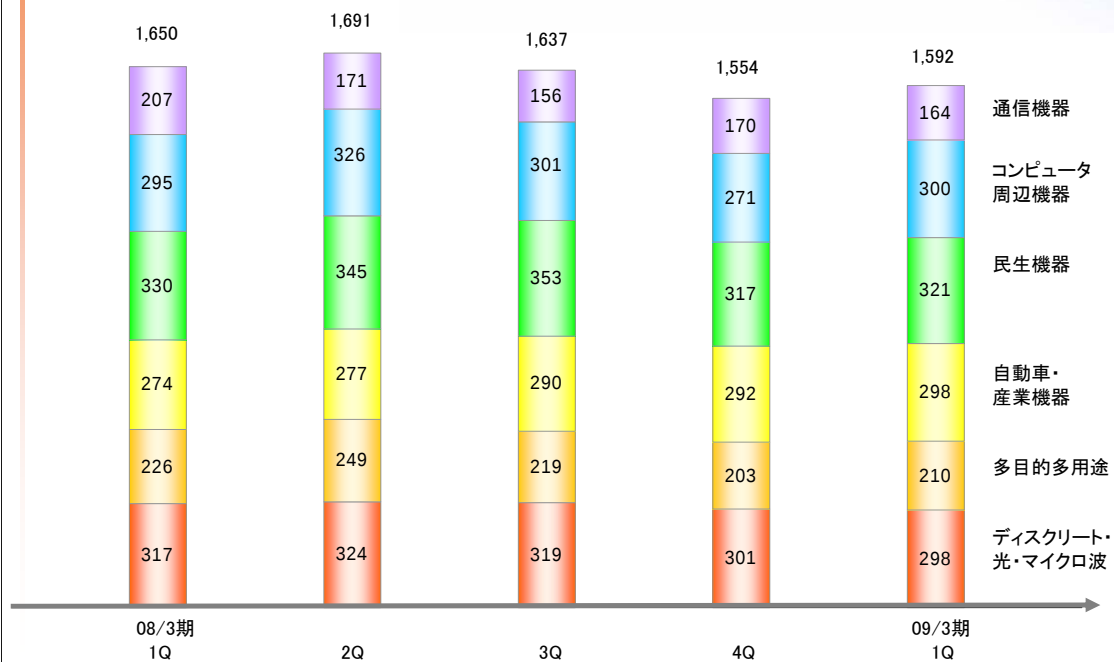
2009年3月期第1四半期の決算概要のご説明は以上でございます。

引き続き、当社は業績改善に向けまい進して参ります。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。本日は有難うございました。

参考：分野別 半導体売上高

NEC

(単位:億円)



NEC ELECTRONICS

17